

## 線形写像の表現行列 演習問題 3

本演習問題における基底取り替え行列は、次の意味で用いる\*1.

- $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $\mathcal{B} = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の 2 組の基底とする. このとき  $\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n \in \mathbb{R}^n$  で  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  が  $\mathbb{R}^n$  の基底であるから

$$\begin{cases} \mathbf{b}_1 = p_{11}\mathbf{a}_1 + p_{21}\mathbf{a}_2 + \cdots + p_{n1}\mathbf{a}_n \\ \mathbf{b}_2 = p_{12}\mathbf{a}_1 + p_{22}\mathbf{a}_2 + \cdots + p_{n2}\mathbf{a}_n \\ \vdots \\ \mathbf{b}_n = p_{1n}\mathbf{a}_1 + p_{2n}\mathbf{a}_2 + \cdots + p_{nn}\mathbf{a}_n \end{cases} \quad (2.1)$$

と一意的に表せる. このとき  $n$  次正方行列

$$P = \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} & \cdots & p_{1n} \\ p_{21} & p_{22} & \cdots & p_{2n} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ p_{n1} & p_{n2} & \cdots & p_{nn} \end{bmatrix}$$

を基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への**基底取り替え行列**という. 名前の通り, 基底を  $\mathcal{A}$  から  $\mathcal{B}$  へ取り替えたとき, その違いを表す行列である. 実際, 連立した式 (2.1) は行列を使って

$$[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]P$$

と表せることに注意せよ.  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  は  $\mathbb{R}^n$  の基底であり, とくに 1 次独立な  $\mathbb{R}^n$  に属す  $n$  個のベクトルの組であるから,  $[\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]$  は正則になることに注意すると, 基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への基底取り替え行列は

$$P = [\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n]^{-1}[\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n] \quad (2.2)$$

で定まる  $n$  次正方行列であると言い換えることもできる.

以上を踏まえた上で, 次の問に答えよ.

**問題 1.**  $\mathcal{A} = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $\mathcal{B} = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の 2 組の基底とし,  $P$  を基底  $\mathcal{A}$  から基底  $\mathcal{B}$  への基底取り替え行列とする. このとき, 以下の問に答えよ.

- $P$  は正則行列であり,  $P^{-1}$  は基底  $\mathcal{B}$  から基底  $\mathcal{A}$  への基底取り替え行列になることを示せ.
- $\text{id}: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^n$  を恒等写像とする. すなわち各  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  に対して  $\text{id}(\mathbf{x}) = \mathbf{x}$  で定まる線形写像である. その基底  $\mathcal{B}$  と基底  $\mathcal{A}$  に関する表現行列は  $P$  と等しいことを示せ.
- $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  に対し, その  $\mathcal{A}$  に関する座標と  $\mathcal{B}$  に関する座標をそれぞれ

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix}, \quad \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

\*1 定義や記号の使い方は, 「村上正康・佐藤恒雄・野澤宗平・稲葉尚志 共著, 教養の線形代数 六訂版, 培風館」を参考にしている. 基底に関する座標, 線形写像に関する表現行列は, 同テキストもしくは直前の演習問題である「線形写像の表現行列演習問題 2」を見よ.

とする。このとき

$$\begin{bmatrix} x_1 \\ x_2 \\ \vdots \\ x_n \end{bmatrix} = P \begin{bmatrix} x'_1 \\ x'_2 \\ \vdots \\ x'_n \end{bmatrix}$$

となることを示せ（つまり、旧座標は新座標に左から基底取り替え行列を掛けたものと等しい）。

**問題 2.**  $f: \mathbb{R}^n \rightarrow \mathbb{R}^m$  を線形写像とし、

- $A = \{\mathbf{a}_1, \mathbf{a}_2, \dots, \mathbf{a}_n\}$  と  $B = \{\mathbf{b}_1, \mathbf{b}_2, \dots, \mathbf{b}_n\}$  を  $\mathbb{R}^n$  の 2 組の基底
- $C = \{\mathbf{c}_1, \mathbf{c}_2, \dots, \mathbf{c}_m\}$  と  $D = \{\mathbf{d}_1, \mathbf{d}_2, \dots, \mathbf{d}_m\}$  を  $\mathbb{R}^m$  の 2 組の基底、
- $F$  を基底  $A$  と基底  $C$  に関する  $f$  の表現行列
- $G$  を基底  $B$  と基底  $D$  に関する  $f$  の表現行列
- $P$  を基底  $A$  から基底  $B$  への基底取り替え行列
- $Q$  を基底  $C$  から基底  $D$  への基底取り替え行列

とする。このとき

$$G = Q^{-1}FP$$

が成立することを示せ

(Hint: 各  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^n$  と、 $\mathbf{y} = f(\mathbf{x}) \in \mathbb{R}^m$  に対し、 $\mathbf{x}$  の  $A$  と  $B$  に関するそれぞれの座標、 $\mathbf{y}$  の  $C$  と  $D$  に関するそれぞれの座標を考え、これらの関係性に注目せよ.)